

研究動向

地理言語学関連の国際ジャーナル紹介

福嶋秩子
新潟県立大学

Introduction to International Journals Related to Geolinguistics

FUKUSHIMA, Chitsuko
University of Niigata Prefecture

Abstract: Three international journals related to geolinguistics are introduced: *Dialectologia et Geolinguistica*, *Journal of Linguistic Geography*, and *Dialectologia*.*

キーワード: 地理言語学; 言語地理学; 方言学

Keywords: geolinguistics; linguistic geography; dialectology

本稿で、地理言語学に関わる国際ジャーナルを紹介する。紹介するのは、以下の三誌である。所収論文はほとんど英語で書かれているが、中には別の言語で書かれていることもある（その際には英語の概要がついている）。

Dialectologia et Geolinguistica

Journal of Linguistic Geography

Dialectologia

1. *Dialectologia et Geolinguistica*

方言学の国際学会 The International Society for Dialectology and Geolinguistics (SIDG)の会誌であり、年1回 De Gruyter (Mouton)から刊行されている (*DiG* と略称される)。1993年創刊で、最新版は2020 Volume 28である (Impact Factor:

福嶋秩子 (2021) 「地理言語学関連の国際ジャーナル紹介」 『地理言語学研究』 1: 142–145. doi: <https://doi.org/10.5281/zenodo.5529352>

0.286¹)。現在の Editor-in-chief は Astrid van Nahl である。SIDG の会員になれば毎年冊子が送付されるが、会員でない場合は De Gruyter のホームページで閲覧できる。学会のホームページは Welcome to the SIDG (geo-linguistics.org)²で、De Gruyter のホームページは Dialectologia et Geolinguistica (degruyter.com)³である。

学会と会誌の名称にあるとおり、この会誌に掲載される論文は方言学か地理言語学に関するものであるが、地図を含む論文にも様々なものがある。

最近号に例をとると、ザルツブルク大学の Hans Goebel 教授が推進した dialectometry (計量方言学) の手法を用いて、ある区域内の言語変異を計算し色の変化で示した地図をアウトプットとする論文がある。(Mena B. Lafkioui (2020) Rif Berber: From Senhaja to Iznasen. A qualitative and quantitative approach to classification. *DiG* 28, 117-155⁴)

同じ号に日本語の鶴岡方言についての井上史雄・半沢康共著の論文が掲載されている。「浜荻」(1767年発行の方言集)以後の100年間の言語変化を明らかにするために、1950年と2018年に行われた年代別の現地調査の結果を用いて、方言の残存度の減少カーブを示すグラフを描いている。また、二次元の地図上に年齢差と性差を合わせて示した3Dプロットグラムを作成している。(Fumio Inoue & Yasushi Hanzawa (2020) Dialect vocabulary changes over 100 years. Standardization and new dialect forms in Hamaogi Glossary. *DiG* 28, 105-116⁵)

史的資料を用いた研究もある。ノルウェー語の代名詞における双数から複数への変化の過程を探るために、文献における諸形式の出現数を数値化して文献の年代別に地図にプロットし、その変化の広がりや型を細かくみている。なお、論文中に歴史方言学の先行事例の地図がいくつか示されており、興味深い。(Tam Blaxter (2019) Tracing linguistic diffusion in the history of Norwegian using kernel density estimation. *DiG* 27, 5-34⁶)

同じ号で、オンライン化された English Dialect Dictionary (EDD) のホームページの最新バージョンが紹介されている。語形のソートや地図化が可能であるそうだ。(Manfred Markus (2019) EDD Online: What is new in its latest version 3.0. *DiG* 27, 103-121⁷)

¹ 注3参照。2021年9月3日閲覧。

² <http://geo-linguistics.org/>

³ <https://www.degruyter.com/journal/key/dig/html>

⁴ <https://doi.org/10.1515/dialect-2020-0005>

⁵ <https://doi.org/10.1515/dialect-2020-0004>

⁶ <https://doi.org/10.1515/dialect-2019-0002>

⁷ <https://doi.org/10.1515/dialect-2019-0006>

2. *Journal of Linguistic Geography*

Cambridge University Press からオンラインで年 2 回刊行されている。2013 年創刊で、最新版は 2020 Volume 8 である。Editor は Dennis Preston と Francisco Moreno-Fernández であるが、William Labov が Senior Editorial Advisor となっている。いずれかの *Methods in Dialectology* (方言学の方法国際会議) で Labov の講演があったが、その際にこの雑誌の創刊が高らかに宣言されたことが記憶にある。ホームページは *Journal of Linguistic Geography* | Cambridge Core⁸ である。

言語地理学を標榜しているものの、社会言語学にやや軸足が置かれた雑誌のように感じる。実際、最新号の論文をざっと見ると、社会言語学の中でも方言の知覚 (perception) についての論文が 8 本中 4 本入っていることに気づく。Editor の一人である Preston は 1989 年に *Perceptual Dialectology*⁹ という本を書き、一般人がもつ方言イメージを地図化する試みを行った。「方言で何と言うか (production)」だけでなく、「方言をどう捉えているか (perception)」にも注目する流れが今も続いているのである。

地理言語学的な論文としては、1933/34 年に行われたいわゆる *Wenker sentences* を用いた翻訳によるスイスドイツ語調査 (WDS) のデータの評価と分析がある。このデータは通信調査で教員や学生が回答したデータであり表記の統一性がないが、同時期に行われた研究者によるスイスドイツ語調査 (SDS) の結果と数理的に比較することで、その価値を再評価している。(Alfred Lameli, Elvira Glaser and Philipp Stöckle (2020) Drawing areal information from a corpus of noisy dialect data. *Journal of Linguistic Geography*, Volume 8, Issue 1, April 2020, 31- 48¹⁰)

3. *Dialectologia*

バルセロナ大学からオンラインで刊行されている。年 2 回の刊行であるが、Special Issue が随時出されている。2008 年創刊で、最新版は 2021 年冬刊行の Number 26 である。Editor-in-chief は Maria-Pilar Perea で、ホームページは *Dialectologia* (ub.edu)¹¹ である。

方言学全般を扱っているため、必ずしも言語地図を含むとは限らないが、Editor の Perea 自身が過去の方言資料のコーパス化とそれを基にした言語地図作成を行っていることもあり、地理言語学的な研究が多く含まれている。実際

⁸ <https://www.cambridge.org/core/journals/journal-of-linguistic-geography>

⁹ Preston, D. R. (1989) *Perceptual dialectology*. New York: Walter de Gruyter.

<https://doi.org/10.1515/9783110871913>

¹⁰ <https://doi.org/10.1017/jlg.2020.4>

¹¹ <http://www.publicacions.ub.edu/revistes/dialectologia/>

2007 年の国立国語研究所主催の国際シンポジウム「世界の言語地理学」の登壇者らが寄稿して Special Issue が発刊されたりしている (Special Issue I (2010))。

First Dialectologists というシリーズがあり、以下のような学者を含む 18 人の世界の方言学者の評伝が発表されている。

Jules GILLIÉRON (1854-1926)

Harold ORTON (1898-1975)

Sever POP (1901-1961)

Raven Ioor McDAVID, Jr. (1911- 1984)

Willem A. GROOTAERS (1911-1999)

Takesi SIBATA (1918-2007)

出版情報

投稿受理日：2021年4月20日

採用決定日：2021年9月3日